



# わかみどり

URL <http://www.minami.city.kitamoto.saitama.jp/>

**北本市立南小学校**

Tel 048-591-4709

Fax 048-591-5802

**みんな なかよく みどりの学校**  
かしこく 元気な 南っ子

## 世の中は桜の下の相撲かな 木戸孝允

校長 安野 正 人

ずいぶん前の話になりますが、校長の代理で出た中学校の卒業式で、大変感銘を受けたことがありました。校長先生の式辞でしたが、幸せには3通りあるという話でした。

一つ目は「してもらう幸せ」。生まれて間もない頃は、何もできません。お腹が空けば泣き、おむつが濡れれば泣きました。すると親がとんできてくれて、おっぱいを含ませてくれたり、おむつを替えてくれたりしました。二つ目は「自分でできる幸せ」。九九が言えるようになった、サッカーがうまくなった、二重跳びができるようになった。なんでも自分でできるようになると、少し偉くなったような気がしました。そして3番目は「人にしてあげる幸せ」。人にもものをさしあげる、人に何かしてさしあげる、人の喜びを自分の喜びとする。これが最高の幸せだという内容でした。

あとで調べてみると、これは、イエローハットの創業者である鍵山秀三郎さんの話でした。受け身の幸せから自立の幸せへ。そして、利他の精神というか、他人の喜びを我が喜びとする崇高な幸せへの道筋、人としての成長を示したものではないかと思いました。

同じ頃、下の投書を見つけ、思わず涙してしまいました。日付のメモがないので正確にはわかりませんが、もう10年以上前のものです。まさに3つの幸せそのものでした。同時に、親であっても、娘さんからしてもらう幸せがあるということ。つまり、幸せとは双方向なのだ実感しました。

私が教員になる勉強をしていた頃、教育原理で「啐啄同機」(そったくどうき)という言葉を知りました。仏教用語でもありますが、ひな鳥が卵の殻から出ようと内側からくちばしでつつく時、親鳥も外側からつついて助けてあげます。つまり、学びたい、と思う子どもを、適時適切にサポートすることを指しています。これが早すぎても遅すぎても、意味がありません。この子には、今何が必要なのか、どんなサポートが可能なのか、よくよく見極めることが大切だということです。

教育とは、意図的、計画的な営みです。しかし、人としてのゴールは、みんな同じとは限りません。それでも想像するのは、子どもたちが10年後、20年後にも笑っている姿です。そのために、今何ができるのか、何が必要なのか。

木戸孝允の句を読みながら、そんな思いを広げました。

主婦 中田 寿恵  
(札幌市中央区 45歳)

中3の娘の担任から、卒業に寄せて子供に手紙を書いて欲しいという話があった。内緒にしておいて卒業式に渡すのだという。素敵な提案と思いつつ、私はその手紙をなかなか書けずじまい。何か励ましてあげたい、人生に役立つ言葉は何だろう、と考え過ぎたのかも知れない。

私は、昔よく娘と一緒に行ったケーキ屋さんの喫茶室で手紙を書こうと思いついた。久しぶりのお店は、壁に飾られていた白百合の絵も、ピンク色のシュガーポットも昔のまま。口の周りにクリームをいっばいつけケーキをほお振る娘の姿が蘇った。娘は幼い頃に大病を患ったことがある。その頃から今までの切ないほどに頑張り屋の娘の姿が一度に思い起こされた。そんな姿に励まされていたのは私の方。

「涙でにじんだ「ありがとう」」

卒業式の朝、思いがけず、娘からの手紙を受け取った。お互い、相手からの手紙を知らずじまいに感謝して封を開いたが、一行読んだだけで涙がにじんで眺めなくなった。

「産んでくれて、ありがとう」。娘の手紙にはそう記されていた。娘はこの春、私の母校に進学する。

思わず口にしていった。「生まれてきてくれて、ありがとう」。その言葉を手紙にしたためた。

卒業式の朝、思いがけず、娘からの手紙を受け取った。お互い、相手からの手紙を知らずじまいに感謝して封を開いたが、一行読んだだけで涙がにじんで眺めなくなった。